

2013年8月7日 全8頁

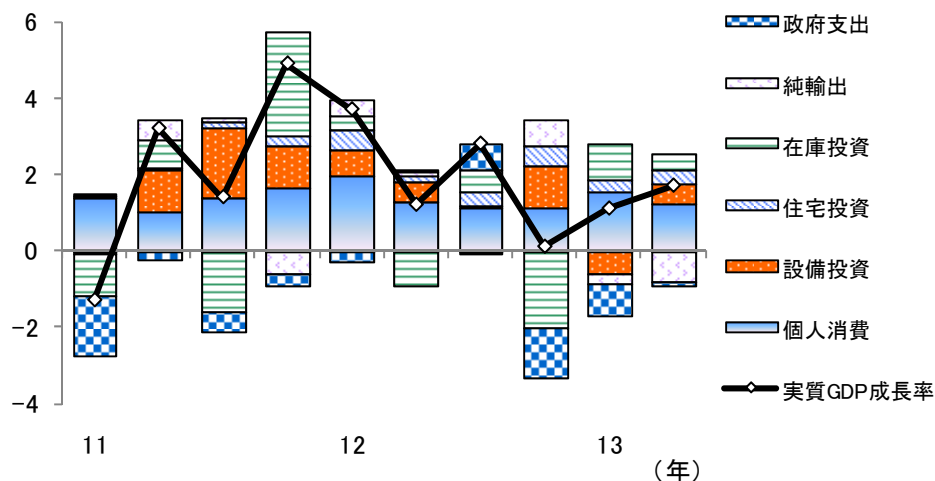
# アメリカ経済グラフポケット(2013年8月号)

2013年8月6日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター  
上野 まな美  
エコノミスト 笠原 滝平

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



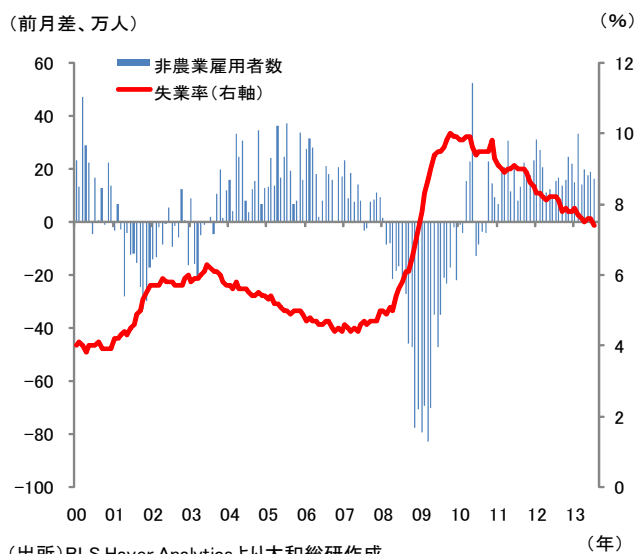
(前期比年率、%、%pt)	2011		2012				2013	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	1.4	4.9	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	1.7
個人消費	2.1	2.4	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8
設備投資	16.7	9.5	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.6
住宅投資	6.1	12.2	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	13.4
政府支出	-2.5	-1.5	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4
輸出	7.0	2.7	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	5.4
輸入	4.9	5.9	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	9.5
寄与度								
個人消費	1.4	1.7	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2
設備投資	1.8	1.1	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6
住宅投資	0.2	0.3	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4
在庫投資	-1.6	2.7	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4
政府支出	-0.5	-0.3	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1
輸出	0.9	0.4	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	0.7
輸入	-0.8	-1.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.5

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

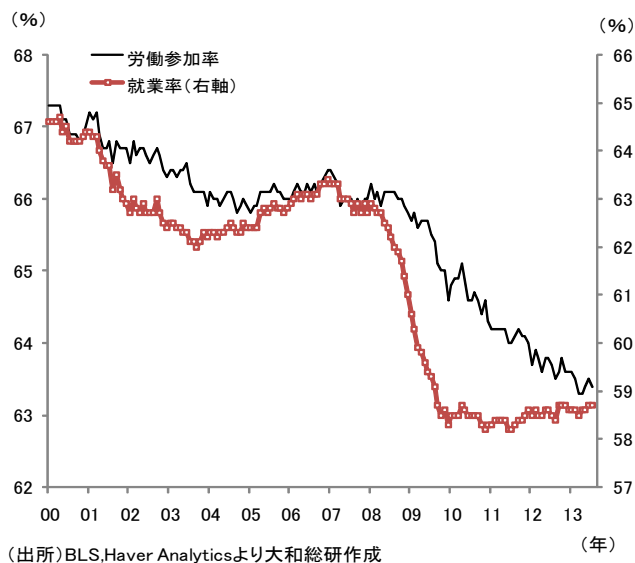
## 雇用環境<sup>1</sup>

- ◆ 7月の失業率は7.4%で、6月から0.2%ポイント低下した。失業率は3ヵ月ぶりに下がり、4年7ヵ月ぶりの低水準となった。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差16.2万人増で、6月から増加幅が縮小している。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は20.0万人増であった。

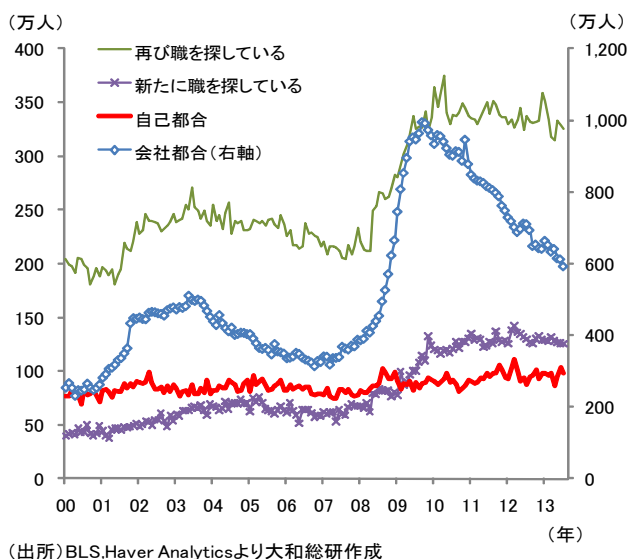
### 非農業雇用者数と失業率



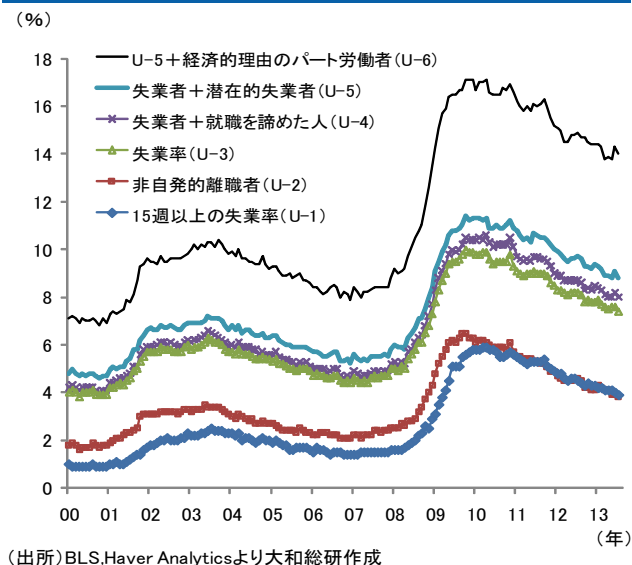
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率

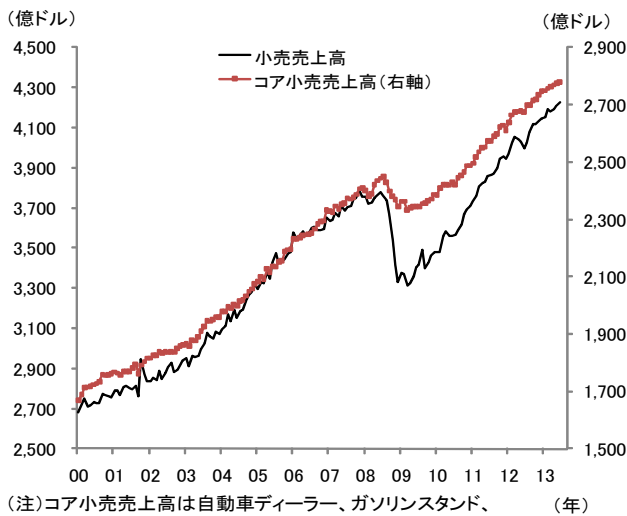


<sup>1</sup> 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「失業率の低下を前向きに評価」(2013年8月5日)  
参照: [http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130805\\_007509.html](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130805_007509.html)

## 個人消費

- ◆ 6月の個人消費は小売売上高が前月比0.4%増で、コア小売売上高は同0.1%増であった。
- ◆ 消費者マインドは改善し、7月のロイター/ミシガン大の消費者センチメントは、2007年7月以来の高水準に達した。
- ◆ 6月の自動車販売台数は前月比2.6%増加し、年率換算1,581万台であった。2012年11月から8ヵ月連続で1,500万台以上を維持。

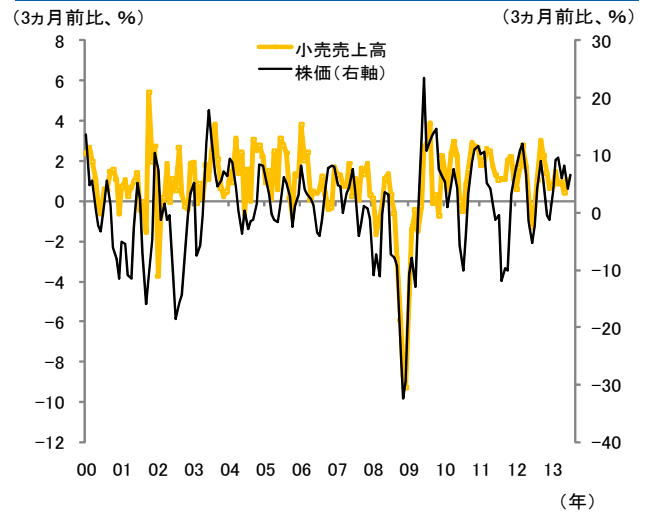
### 小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

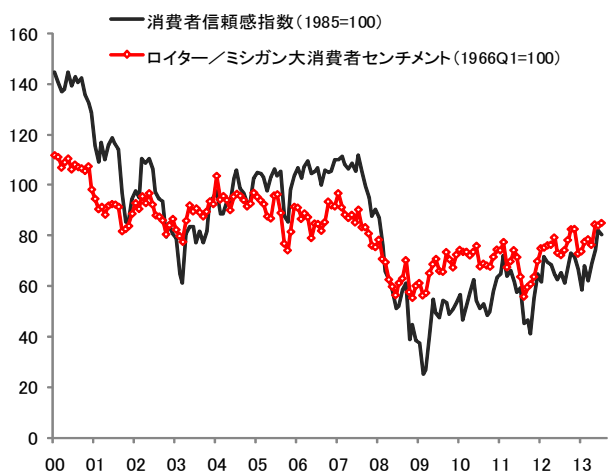
### 消費と株価



(注)株価はWilshire5000。

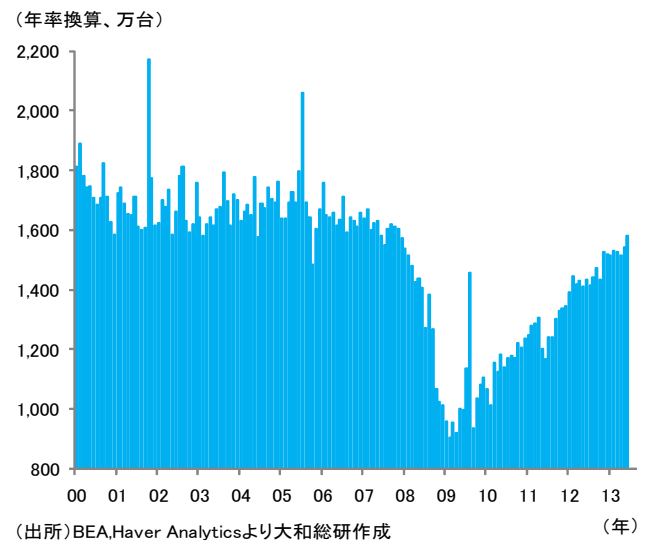
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

### 自動車販売台数

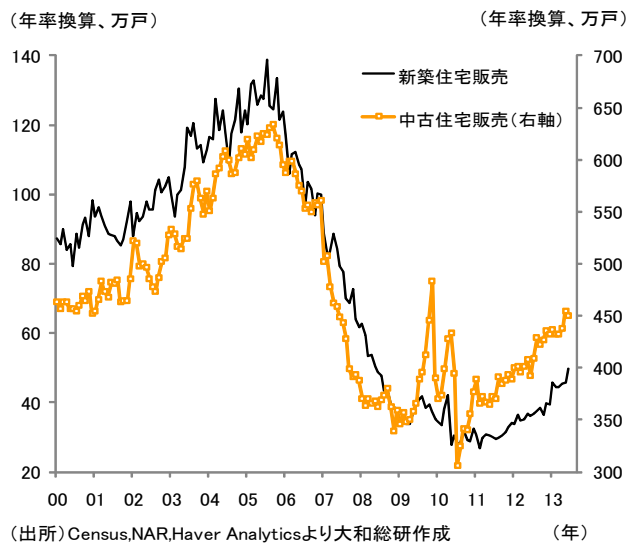


(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

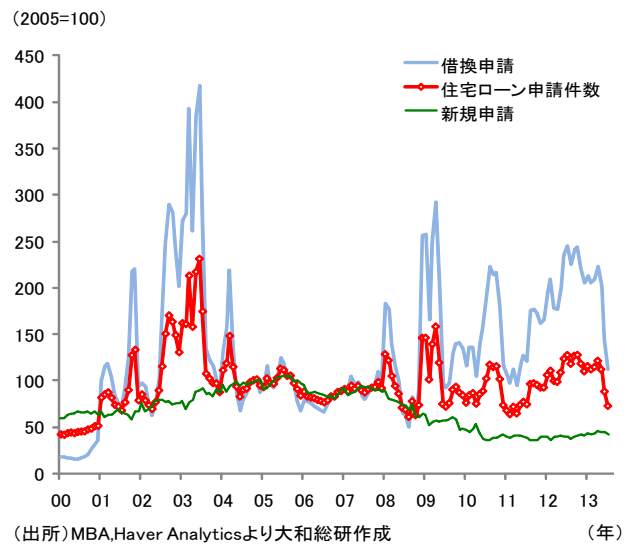
## 住宅市場

- ◆ 6月の新築着工は前月比9.9%減少し、年率換算83.6万戸と、2012年8月以来の低水準になった。
- ◆ 6月の中古住宅販売（一戸建て）は、年率換算450.0万戸で前月比1.1%減。
- ◆ 6月の新築住宅販売は、年率換算49.7万戸で前月比8.3%増。
- ◆ 5月の住宅価格は引き続き上昇しているものの、ケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比1.0%上昇と、4月から上昇率は鈍化している。

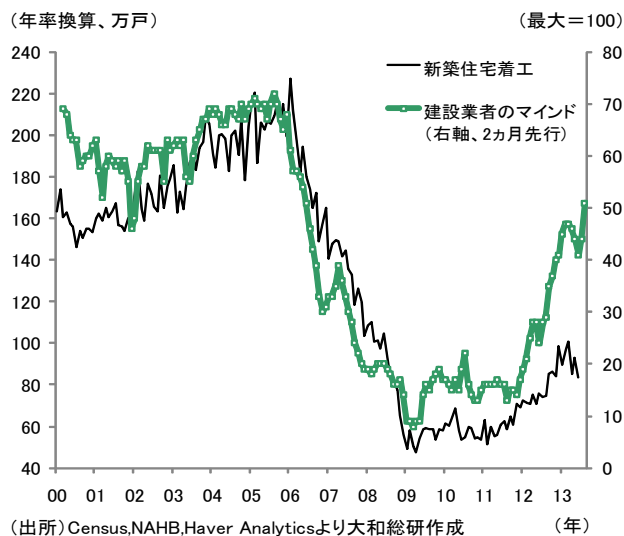
### 住宅販売（一戸建て）



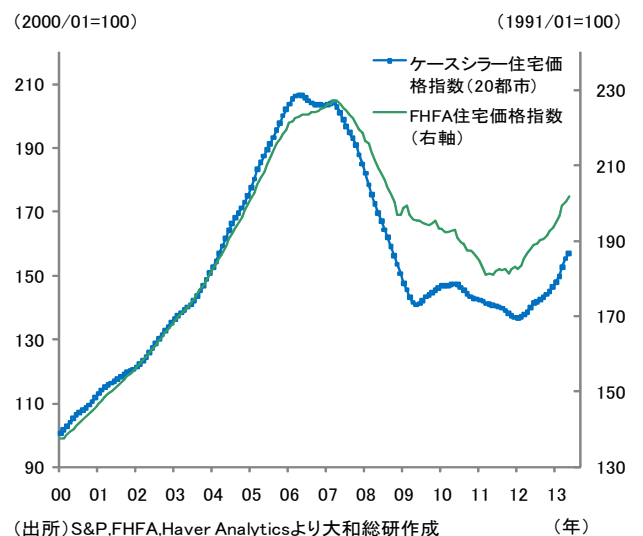
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者のマインド



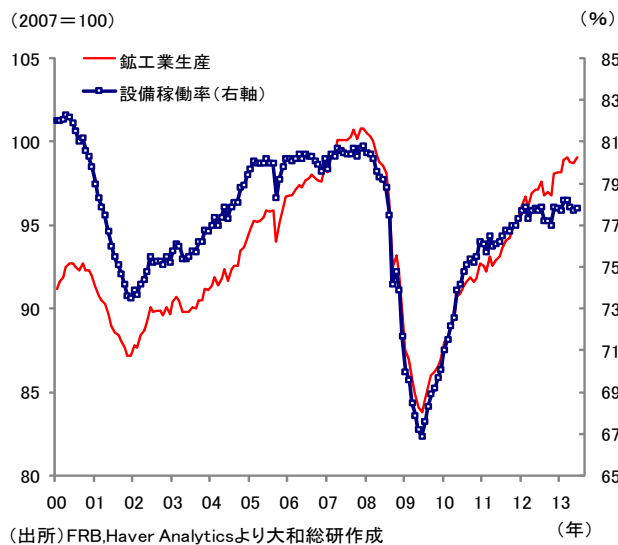
### 住宅価格



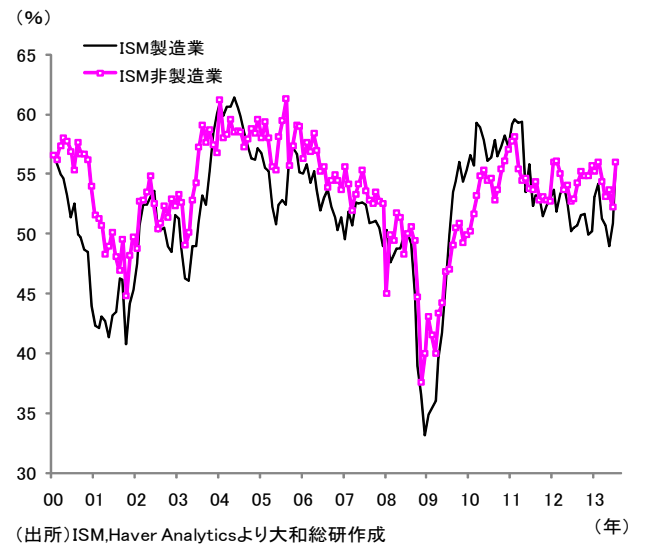
## 企業動向

- ◆ 6月の鉱工業生産指数は前月比0.3%増で、うち製造業も同0.3%増となった。
- ◆ 6月の国防・航空機を除く資本財受注は前月比0.9%増。
- ◆ 7月のISM製造業指数は前月比4.5%ポイント上昇。生産や新規受注の増加が寄与し、2011年6月以来2年ぶりの最高水準となった。非製造業指数も同3.8%ポイント増加の56.0で、事業活動や新規受注の増加により、過去3年間に於ける最低水準であった6月から大幅に回復した。

### 鉱工業生産と設備稼働率



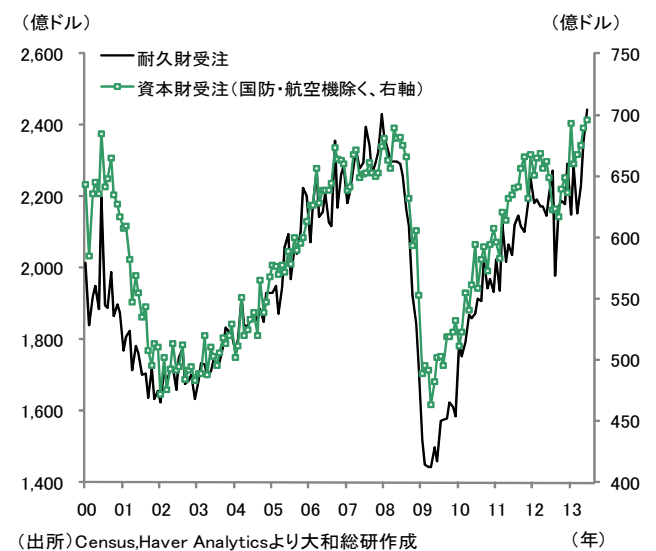
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



### 耐久財受注

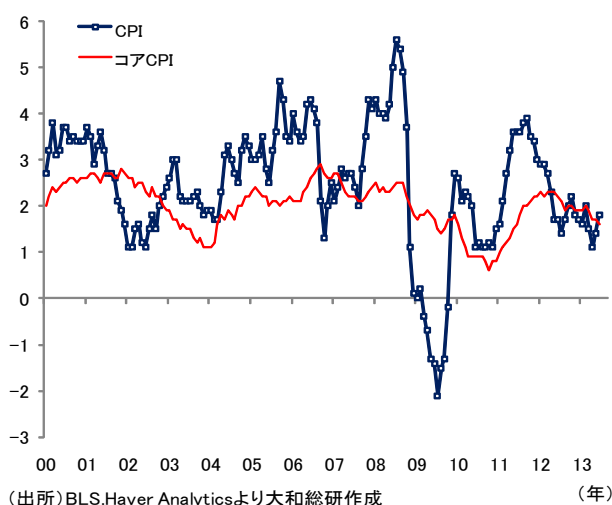


## 物価動向

- ◆ 6月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.8%増で、コアCPIは同1.6%増であった。両指数ともに、FRBが目標とする2%を依然下回っている。
- ◆ 7月末のWTI原油先物価格は105.03ドル/バレルと、6月末の96.56ドル/バレルから上昇し、月末値としては2012年2月以来の高価格となった。

### 消費者物価指数

(前年比、%)

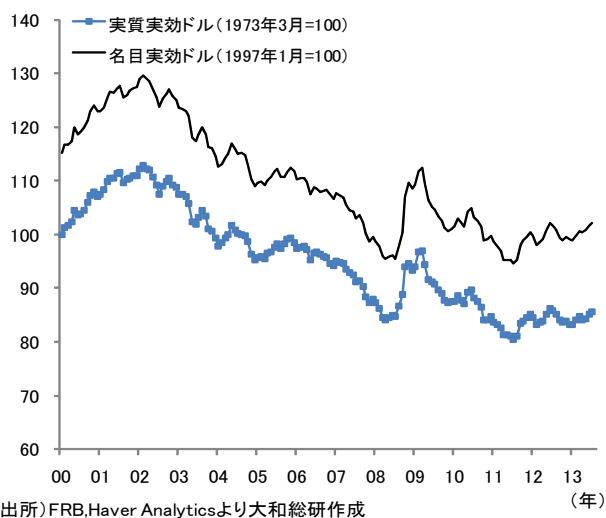


### 期待インフレ率

(%)



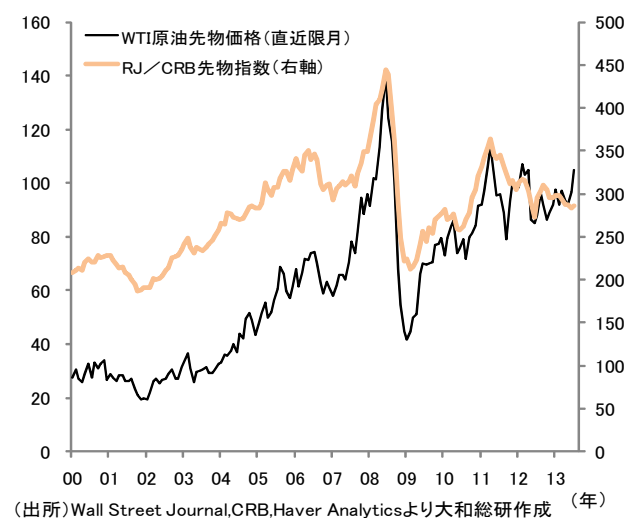
### 実効為替レート(ブロード)



### コモディティ価格

(ドル/バレル)

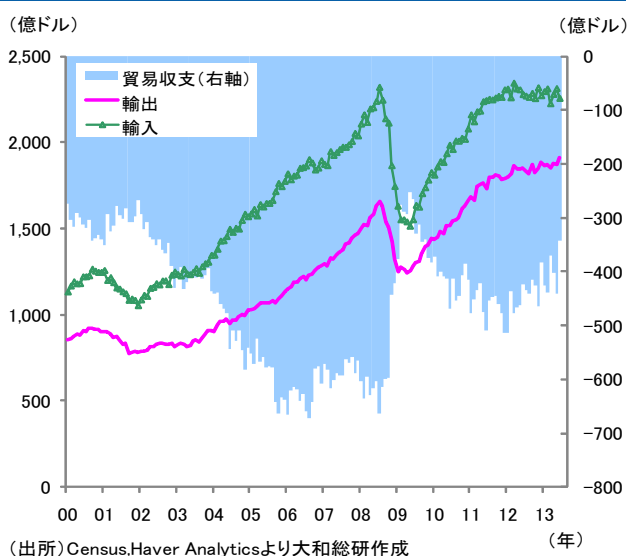
(1967=100)



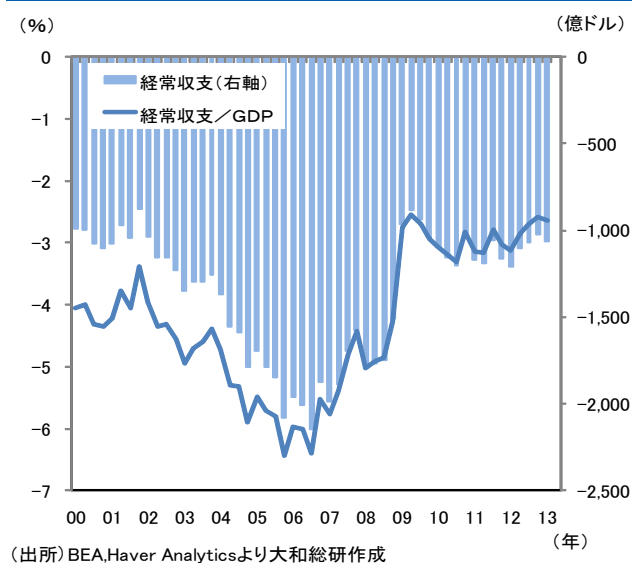
## 輸出入・経常収支

- ◆ 6月の貿易収支は342億ドルの赤字であったが、前月より赤字額が22.4%減と大幅に減少した。2009年10月以来最小の赤字額である。
- ◆ 輸出は前月比2.2%増の1,912億ドルで、輸入は同2.5%減の2,254億ドルであった。
- ◆ 地域別では、日本向けの輸出が前年比で減少した。輸入は、欧州、中国、日本からの輸入が前年比マイナスであった。

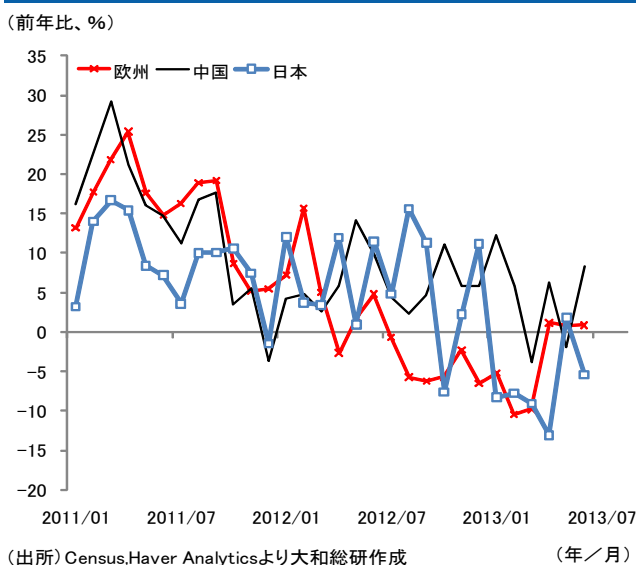
### 貿易収支動向



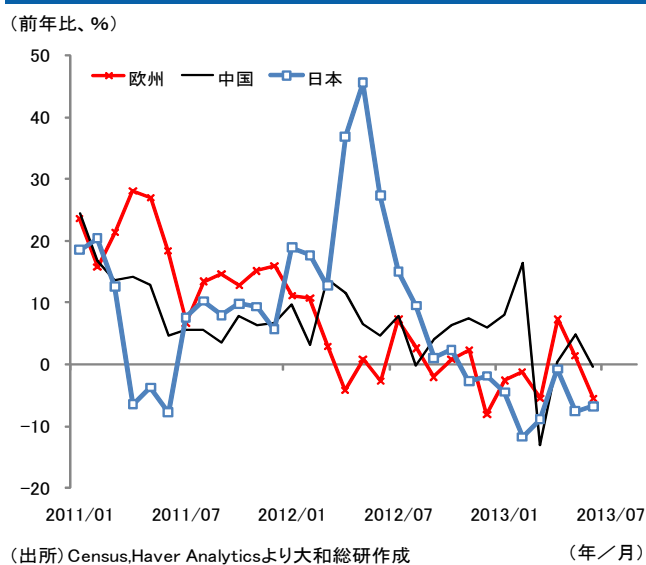
### 経常収支の推移



### 国・地域別輸出動向



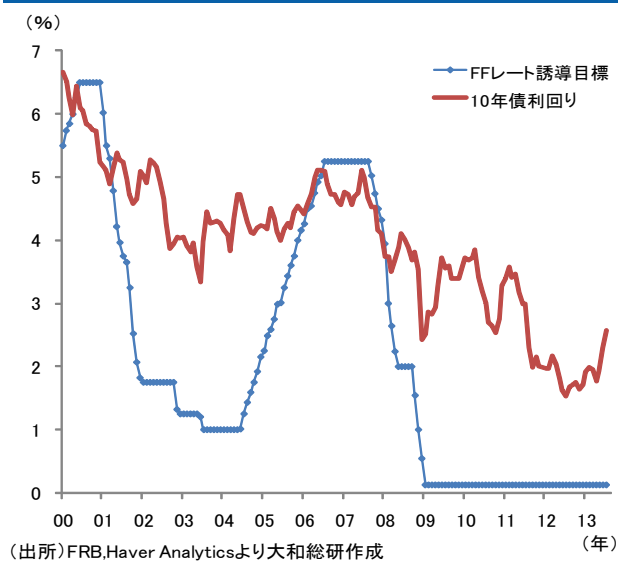
### 国・地域別輸入動向



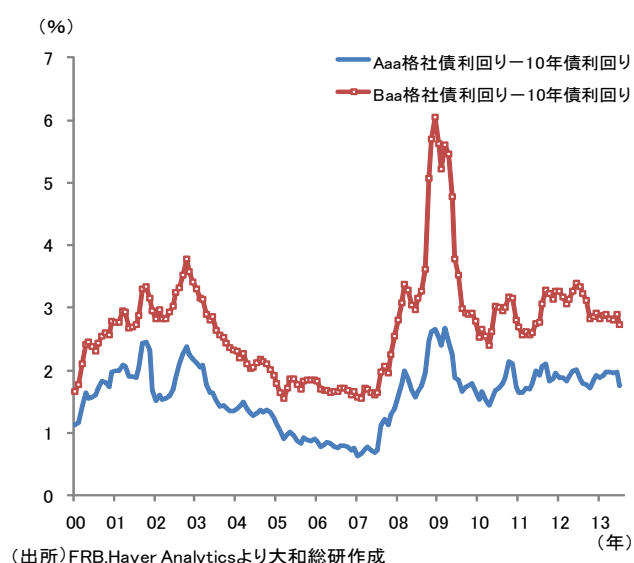
## 金融・財政

- ◆ 長期金利の7月平均値は2.58%で、6月平均値の2.30%から更に上昇した。7月の平均値の2.58%は、2011年8月にQE2（量的緩和策第2弾）が示唆されて以来、最高水準である。
- ◆ QE3を受け、FRBの資産残高は増加が続き、直近の7月31日の週平均では約3兆6,100億ドルであった。7月のFOMCにおいて、QE3の継続が発表された。
- ◆ 連邦政府の財政収支は赤字幅の縮小が続いている。

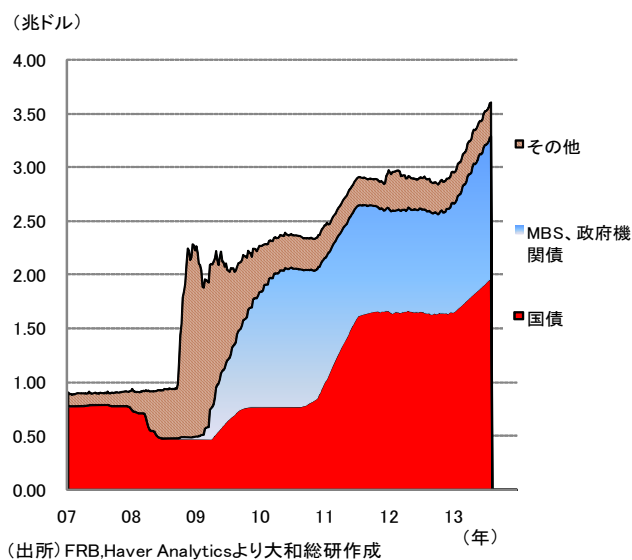
### 政策金利・長期金利



### クレジットスプレッド



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支

